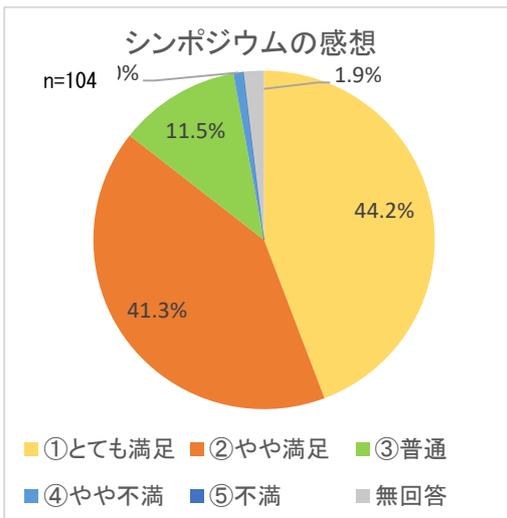


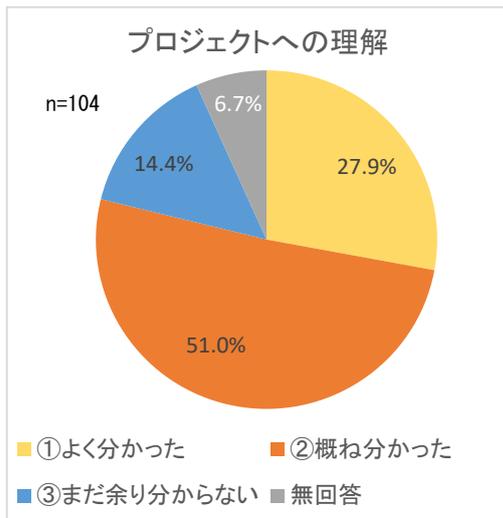
VI アンケート結果

シンポジウムの終了後、出席者の皆さんにアンケートをお願いしました。その結果（抜粋）を以下に示します。

Q.本日のシンポジウムの感想をお聞かせください。



Q.シンポジウムに参加して、「福島再生・未来志向プロジェクト」への理解が深まりましたか。



Q.本日のシンポジウムの内容に関するご意見（一部抜粋）

- 幅広い取組みの紹介があり、大変良い企画だったと思います。
- 自治体の役割が重要であると考えるので、従来の自治体の取り組み方のみならず、横断的な問題に取り組む形態を模索してほしい。こうした努力の報告を期待したい。
- 周辺の取組みを把握することができた。その中で、方向性や課題など思いを共有する人物も把握できた。今後、今回知り得た人物との関係を深め、ともに発展に向けた取り組みを行っていきたいと感じている。
- 福島再生を加速化し、より早い自立を目指していただきたい。そして来るべき東海・東南海地震災害から復興するためのモデルになるように期待します。
- 伝わりやすい事例や課題を的確に発表して頂いたと思います。ただ根の深い問題点については、どなたも言及がありませんでした。
- 東日本大地震で地域が崩壊したことを逆に捉えて、新しいスマートコミュニティ構築を進めていることに驚きを持った。都市部では出来ない革新的な街が創出されることを期待する。機会があれば、この地域を訪ねてみたい。
- 資料が後日 HP にアップするとのことであったが、事前にアップするか紙で配布資料に入れておくなどしておいてほしい。文字が多い資料で分かりにくかった。
- 基調講演は全員早口で聞き取りづらかった（時間が足りないのでは）。「福島復興と未来志向プロジェクト」であるから、今後のあるべき街づくりの提案は良いのですが、研究者、コンサル等のプロポーザル会の感が強い。再生に向けての現状の取組みと、課題を共通認識する意見交換をしたかった。

Q.「福島再生・未来志向プロジェクト」に今後、期待すること・ご要望（一部抜粋）

- ビジョンを明確にしてほしい。
- 復興事業が点から線、面へなることを期待しています。
- 除染の状況や廃棄物の処理状況等のいちばん最初からの、いちばん大事な情報を展開してほしいです。
- 単独の機関では出来ないことを実施できることを期待している。
- 定期的な開催で福島再生のモチベーションをキープしてほしい。
- このような取組みは一般住民の方には分かりにくい言葉が多い。このようなシンポジウムの他に、一般の人がもっとわかりやすい表現で広報することが重要。
- 非常に興味深い取組みがたくさん進められているので、県外にもその内容を発信してほしいと思います。
- プロジェクトを様々な場所・場面でPRして頂き、同時に各省庁・県の補助金・支援内容（メニュー）もお知らせすることで、興味を持つ企業や地元住民が増えると思います。

Q.福島の再生・復興に必要なだと考えること、その際に課題になると考えること

- 少しでも早く帰還困難区域が解除になって、多くの地元の方々が戻り、地域が復興することが大事だと思う。
- 人・モノの流通の活性化には交通網の整備（鉄道）が必要ではないかと思う。
- 帰還困難区域で交流が分断されているように感じます。人の行き来（交通アクセス）について再考が必要ではないかと感じます。
- 民間金融機関から ESG 投資を募るなど、金融面の進化が必要ではないかと思います。米国のシリコンバレーのように、ベンチャーが育つ環境整備が必要ではないでしょうか。
- 震災前の福島に人を戻す為、インフラ整備、病院確保、雇用先を選択できる体制が必要。
- 風評被害を払拭すること。県外の多くの方に、復興に向けた取り組みを知ってもらうことが必要。復興のためのインフラ投資が必要。国の予算をつけるべき。
- 人材の確保が重要だ。少子化の食い止めるとともに、賃金の確保が必要。
- 若手に考えてもらう、関わってもらう事が必要。
- 人が住みたいと思うまちづくり。産業だけあっても、インフラだけあっても人は定住しない。

おわりに

シンポジウムでは、様々な事例紹介、地域の課題が紹介され、またそれを踏まえて今後の取り組みをどうしたらいいのかということについて、活発な議論が行われました。

福島の復興再生は道半ばということではありますが、一方で、大変心強い、頼もしい取り組みも、着々と進んでいるということを実感いたしました。

これをさらに発展させていかなければなりません。今日の議論の中には、まず産業がなかなか復興していかない、人が足りない、あるいは社会の基盤づくりも遅れているというお話がありましたが、少しずつ取り組みは始まっておりますので、さらに加速化していかなければいけないということです。

普通は、地域の発展というのは、時間をかけて、産業や人、生活基盤などが、相互に支え合って自然発生的に発展していくものだと思いますが、福島における課題は、これらの要素が非常に弱ってしまったものを、バランスをとりながら、普通に育っていくよりも早く発展させる必要があるということです。そのためには相当な知恵を絞っていかないとはいけませんし、それぞれの分野で活動されている人がどうしているのかということをよくお互い知り、その上で関係者が連携して取り組むことが必要であると思います。今回のシンポジウムを1つの機会として、関係者の皆様のさらなる連携、協力の機会が作られればと思っております。

最後になりますが、福島再生・未来志向プロジェクトは、これから取り組みが本格化、発展していきます。ぜひ皆様からも、様々なニーズを環境省のほうにぶつけて、さらにはプロジェクトに参加していただきたいと存じます。

(第1回シンポジウム 主催(国立研究開発法人国立環境研究所)
による閉会挨拶より)

[お問い合わせ]



環境省 環境再生・資源循環局

福島再生・未来志向プロジェクトチーム

電 話 03-3581-2788

メール mirai_shikou@env.go.jp
